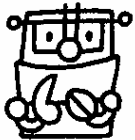


ドライアイスの性質、人体にあたる害を教えて



ドライアイスは固体の二酸化炭素のかたまりで、大量の二酸化炭素が出ると、呼吸ができずに死ぬこともあるさ。

ドライアイスは、こおった二酸化炭素

ドライアイスは、特別な方法で二酸化炭素を低温に冷やし、圧力を加えて固体にしたものです。気体が固体になった、氷と同じようなものです。

ドライアイスは、 -78.5 という低温で、液体にはならず、いきなり気体の二酸化炭素になります。この気体になるとき、まわりからたくさんの熱をうばうため、ケーキやアイスクリームなどを、冷やしたまま運ぶときなどに利用されます。空気中では、気体になって出てきた二酸化炭素が、ドライアイスの表面をつつんだようになるため、ゆっくり気体になるので、長持ちします。

ドライアイスの害

ドライアイスは、すごい低温なので、指でさわったりすると、皮ふのタンパク質が変化して、やけどしたようになるから、大変危険です。

ドライアイスに水をかけると、急激に気体の二酸化炭素になり、白いけむりがもくもく出ます。白いけむりは、気体になって出てきた冷たい二酸化炭素が、広がるとき、まわりの空気中の水蒸気が急激に冷やされ、小さい水のつぶになったものなのです。

二酸化炭素は空気より重いので、ゆかをはうように広がって下のほうにたまっていきます。しめ切った部屋で、ドライアイスに水をかけると、二酸化炭素が大量に出てくるため、呼吸ができず、死んでしまうことがあります。ドライアイスを使った実験は、大量の二酸化炭素が出て危険なので、必ず、窓やドアを開けて、空気が入れかえできるようにしてやりましょう。

ドライアイスって、注意して使わないと、こわいんだね。

